

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774900555		
法人名	有限会社ケア・プラザ		
事業所名	ケア・プラザれんげの里		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府富田林市向陽台一丁目4番16号		
自己評価作成日	2021年4月24日	評価結果市町村受理日	2021年6月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の散歩。各フロア異なる勤務体制を組んでおり、利用者様が散歩にいける時間帯の確保に努めております。またケアマネのプラン回数を充実に加え、管理者のM(マネージメント)各フロアリーダーのK(管理)の時間を充実させ、介護職員のストレス軽減、強いては利用者様と係わりあえる時間、要望にお応えする時間の確保に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「家庭的な雰囲気大切にグループホーム」の思いで設立された2ユニットのホームです。富田林市の丘陵の商業地域にあり、近くに総合病院、富田林市ケアセンター(複合施設)があります。緑豊かな自然あふれる遊歩道がすぐ近くにあり、利用者職員は毎日散歩に出かけ、四季折々の風景を楽しんでいます。ホームのフロアからも、ゴルフ場やPLの塔を背景に桜が咲き誇る景色を眺めることができます。隣接するクリニックとの24時間体制の医療連携は、利用者・家族の大きな信頼と安心に繋がっています。「付き添い寄り添い見守るケア」を始めとした理念を掲げ、利用者の思いを叶えることに職員は尽力しています。ホームでの看取りも行い職員はホームで看取らせてもらったことに感謝し、また、看取りの経験からの貴重な学びを日常のケアに活かしています。ホームでの手作りの食事にも利用者様に喜ばれています。管理者は「うちの自慢は、利用者のために頑張る職員」と職員の頑張りを承認し、職員は管理者に敬意と信頼を寄せる職場環境は、ホーム全体の穏やかな雰囲気を作っています。「みんなのためにと思えることが毎日頑張る原動力」と語る管理者が代表となって半年が過ぎました。代表の熱い思いが形になっていくことが期待されるグループホームです。

【事業所基本情報(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)】

https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&lievovsoCd=2774900555-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-34(JAM森の宮事務所2F)		
訪問調査日	2021年5月27日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り前に唱和をして、意識を高めています。	「付き添い寄り添い見守るケア」を始めとした理念を掲げ、朝と夜勤の申し送り時に理念を唱和しています。職員は、理念が実践できたか毎週自己評価を行っています。理念は玄関やフロアに掲示し、地域の方や家族にも理解してもらう工夫をしています。	今後は、理念に沿って目標を立て、さらなる理念の実践に繋げてはいかげでしょうか。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前では、町内会掃除や自主的な道端の掃除、地域の祭りごとやいきいきサロンの参加、隣接している地域包括への遊びに行くなどの機会を設けておりました。	これまでは、地域の花見や盆踊り、小学校の運動会へ参加する等、地域との交流は積極的に行っていましたが、現在はコロナ禍で中止の状況です。半年前に法人代表となった管理者は、地域の人たちが気軽に足を運んでくれるホーム作りを目指しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣小学校への運動会、盆踊りの参加を通して、直にお話しをしていただいたり、毎日の散歩や買い物支援をする中で、積極的に挨拶などを行い、近隣住民や施設関係者とコミュニケーションを構築しておりました。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その時事的な問題が発生した時(現コロナなど)は、家族様の望まれることを可能な限り収集して、サービス向上に努めております。	運営推進会議は、利用者・家族・地域住民・地域包括支援センター職員の参加で2ヶ月毎に実施し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしてきました。コロナ禍で現在は多数の参加はできない状況ですが、地域住民代表にホーム運営の報告を行っています。		

己	自部外	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2, 3か月に一度のグループホーム交流会で近況の報告や推進会の報告書を提出する際、社用で来庁するときなどなどには、地域密着型ご担当者様には実情報告を入れます。	市役所に行く機会が多く、相談事がある時は、市の高齢介護課で顔を合わせて相談しています。管理者はグループホーム交流会の役員を務め、交流会には市の職員も参加し、情報交換や連携を行ってきました。また、毎月市から介護相談員の訪問があり、年一度の市の職員と介護相談員を交えた意見交換会にも参加してきました。コロナ禍で市との交流の取り組みは中止の状況です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度は身体拘束に関する話し合いを行っております。現状なし	身体拘束に関する研修を実施し、職員の意識向上を図っています。また、身体拘束適正化会議を2ヶ月に1回開催し、身体拘束防止について話し合っています。身体拘束の事例はありません。玄関は施錠せず、自由に入出りできるようになっています。管理者は、職員の話しを聞くことに心がけて、職員のストレスへの配慮を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待に関する研修会をミーティングで開くとともに、管理者が身体の状態およびご本人への聞き取りを行い、かつ従業員とのコミュニケーションを図り、見過ごし防止とともに予防に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修をミーティングで行い、制度に関する知識の定着に努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っております。過去の実績のノウハウから特に知っていただきたい箇所を太字にするなどの工夫を行い、ご希望があれば数回にわたり内容をご説明する機会を設けております。		

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コミュニケーションがすべてです。そのツールとして毎月の封書には手書きでお礼やご心配毎がないかという文言を添えてご送付しております。要望が届きましたら、推進会でご報告いたします。	コロナ禍で現在は家族の面会は中止していますが、これまでは家族の訪問も多く、職員は利用者の生活状況を報告しながら家族の要望も聞いてきました。面会が中止されている今は、毎月手紙を送り、利用者の様子を伝えています。面会できない家族の気持ちを配慮して、より安心が得られるようにLINEなどを利用した情報発信を始めました。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで機会を設けますが、その場で言えないのが現状です。日々のコミュニケーションを築く中で、困りごとや心配事の有无を聞き取るように努めております。	ミーティングでは職員の考えを確認し、必要な時は管理者自身の考えを説明し、日々のより良い支援に取り組んでいます。管理者と職員は、自由に意見が言える関係にあります。職員は「うちの自慢は、利用者のために頑張る職員」と、職員の頑張りを承認する管理者に、敬意と信頼を寄せています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望勤務日数や時間帯を可能な限りかなえることができるよう、一階二階の勤務体制を変えています。また職位や資格手当を儲けモチベーションを維持向上する仕組みを整えております。				
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格に基づく外部研修や長時間にわたる研修、会社から依頼する研修に関しては、日勤として扱い参加できるよう周知している				
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2、3か月に一度グループホーム交流会を開催して意見・情報交換の場を設けております。				

己	自	部	外	項 目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15				○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階は不安しかないため、職員に様子を見て、声掛けをたくさん行っていただくようお願いしております。ご自分の居場所としてご認識していただけるように、家族様のご協力も賜っております。			
16				○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時に対象者様の事を可能な限り傾聴させていただきます。その折、ご家族様が望まれること、弊社に希望されること。また同時に弊社側からも契約書に基づき、ご要望をしっかりとお伝えさせていただきます。			
17				○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がその時必要としている支援を見極め、行えるように努めています。			
18				○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気、暮らしをモットーにしております。良し悪しは表裏一体になりますが、一緒に暮らしともに過ごす御家族のような関係だと思っただけのように励んでいます。			
19				○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状、ご家族様とは会えず、動画などでも限界がありますが、家族様のご希望は最大限かなえることができるようにしております。そして通院や敬老会など関わっていただきたい時は、こちら側からお願いいたします。			
20	(8)			○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状は不可能ですが、原則としていつでも来里していただき、お話しする機会を設けます。なじみの場所などのご要望に関してはご家族様の協力を得ます。	馴染みの美容室や洋服店、法事や墓参りに出掛けることで、利用者の馴染みの人や場との関係継続の支援を行ってきましたが、コロナ禍で充分に実施できない状況です。携帯電話で家族と話すことを楽しみにしている利用者がいます。		

己 自部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的には職員が仲介しなければ、不穏な方向に流れてしまうケースが多発しますので、職務として利用者様同士の関係構築を務めさせていただいております。			
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の方々ですので、関係は契約の有無にかかわらず、つながっていくものだと考えております。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のご希望に沿うことができるように、お話を聞かせていただいております。またそのことを職員ができるように話し合いをもっています。	理念のひとつに「付き添い寄り添い見守るケア」を掲げ、利用者一人ひとりの思いや意向を聞きとっています。管理者は職員に「気づく」ことの大切さを伝えています。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネージャーやご家族様から見学時からその生活歴はじめ様々なことをするように図っております。			
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	当グループホープでは、一日の生活の流れがあります。その範囲で可能な限りのご希望にそえるように努めております。			
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に関してはミーティングでケアマネージャーより発表していただき、見える形で周知できるように努めています。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。基本は6ヶ月毎、状態に変化があった場合は随時見直しています。モニタリングは見直し前に実施しています。計画作成担当者は、「この人にとって、一番いいこと」を心がけて計画を作成しています。声かけに努め、脳に刺激を与える介護計画の実践により、手に拘縮がある利用者が、スプーンでの食事やパズルができるようになったケースもあります。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に変化があったときに記入する欄を設けており、その欄を注視かつ申し送りにて具体的にすするようにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できるようにプランP 管理K マネージメントM など日勤業務中にさらなる職員を配置しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の希望を聞きながら、地域との交流をはかれるように努めていきたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に関しては、見学時からお話しており、その後、了解が得られましたら、医師から挨拶に来里するようお願いしています。ご家族様やご本人様の希望で、かかりつけ医に通院していただくことも可能です。	近隣に協力医療機関があり、また隣接するクリニックとの24時間医療連携体制も整っています。医師も気軽にホームに立ち寄り、何でも相談できる関係にあります。入居前のかかりつけ医の受診も可能です。受診の際は基本家族付き添いとしていますが、無理な場合は管理者または介護支援専門員が同行しています。受診結果も家族とお互いに報告を密にし、情報を共有しています。歯科医師の往診も定期的に行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関係性の構築をしており、週一回の訪問看護師による相談、バイタルチェックの実施、また不測の事態時はすぐに連絡がとれるよう体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域の中核病院である富田林病院様の入退院支援センターのご担当者様には定期的な訪問や電話をさせていただき、情報をお伝えしております。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でお見取りの同意書の「ご説明」をさせていただき、緊急時にご家族様ともどもしっかりと連携をしていけるように体制を整えております。	24時間医療連携体制、訪問看護ステーションも導入にて看取りまで支援しています。重度化された場合、早い段階で家族に「看取りの同意書」に添って説明を行い、同意を得ています。職員は家族のように日々を共に過ごしてきたことで最期の瞬間と一緒に迎えられることを誇りに思えるようになりました。歌が好きな利用者の看取りの際は、ベッド脇で職員も一緒に歌を歌い、撮影した動画を家族に見せることができました。家族も「最期をここで過ごせて良かった」と感謝しています。	看取りの指針やマニュアルの作成がのぞまれます。看取りのマニュアル作成時は、看取りの支援を経験した職員の意見や感想など、話し合いを重ねて作成されてはいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハットや緊急時の対応など過去の事例を掘り起こし、まずは安全の確保から連絡手順に至るまでをまとめております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練をおこなっています。避難場所に関しても周知しております。	コロナ禍のため、消防署の立会いはできていませんが、訓練は年2回実施しています。2階には避難用滑り台を設置しており、訓練の際も活用しています。火災予防のためにコンセント回りの埃の掃除も定期的に行っています。防災マニュアルとして各フロアに、台風対応・地震対応・火災対応の各手順を掲示しています。地域住民とは密接な関係作りができています。備蓄も水・乾パン・缶詰を準備して点検もしています。	

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別対応を心がけております。 コミュニケーションの構築具合がすべてを左右しますので、そのことを心がけるように指導しております。また理念にも言葉遣いの配慮を盛り込んでおります。	「付き添い寄り添い見守るケア」を理念に掲げ、設立当初から職員は私服を着用することで家庭的な雰囲気を大切に、馴染みやすい関係作りに努めています。また、『事業の目的及び運営の方針』では「利用者の意思及び人格を尊重し、その人のリズムにあわせたゆったりと見守るかたちのケアを最後まで提供させていただきます。」と謳い、一人ひとりの尊厳尊重を心掛けています。職員は、利用者には不快感を与えないような声かけについて話し合い、常に気に留めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	望まれる生活の実現にむけて可能な限りの支援や援助をするように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	グループホーム内での生活の流れはございますので、秩序の崩壊につながらないように注意しながら、その方のご希望に沿えるように努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様ほぼ全員が身だしなみには無頓着になっていきます。できる限り選択していただけるように配慮しております。		

己	自部外	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けに関しては現状職員が中心におこなっております。ひとえに人的・時間的余裕がなく、利用者様の危険が増すという考え方が定着しているためです。食器を下げること、机を拭くことなどをお願いしております。	食材は生活協同組合より1週間単位で購入し、足りない分は地域の野菜直売所等で購入しています。毎日、食事担当職員が在庫食材から献立を考えています。コロナ禍のため現在は利用者と同じテーブルで食事ができないので、離れた場所で食事をして見守りながら利用者の意見を聴くようにしています。食事形態では歯科医に相談することで一口大や刻みの提供もあります。今後、1日のカロリー等を管理栄養士に見てもらおうようにしていきます。食を楽しんでもらうためにお寿司を食べてもらったり、おやつ作りもしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録にて水分食事を管理しております。個別には電解質の乱れによる脱水症状があった方などにはご家族様相談の上、OS1などを飲んでいただいております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人様拒否が生じないように日々努力しております。また歯科医の定期訪問診察などをとりいれております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録を通して排泄パターンを把握して、最小限のおむつ使用になるように取り組んでおります。	生活記録の食事量や水分摂取量を観察しながら、排泄パターンを把握し援助しています。同性介助については、今後希望があれば対応していきます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールができるように排便記録をとり、個々に応じた服薬量や予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には一人ひとりの入浴の曜日は指定させていただいております。ただ自立されている方に関しては、入浴していただくことは可能です。	基本的には1週間に2回の入浴となっています。が、希望で4回入浴されている方もいます。入居前の使い慣れた個人のせっけんやシャンプーの持ち込みも可能です。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	枕の調整や起床時の体の痛みなどの聞き取りは入所後一か月間は行ってあります。本音はコミュニケーションがとれていなければ聞くことができないため、その後も訴えがあればおっしゃっていただける関係性を持てるように努力しております。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケアマネージャーが中心となり服薬管理をしてあります。そのベネフィットのみならずリスクに関する情報の周知もしております。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の趣味や特技を活かせることができるように、披露の場を設けたり、役割をもっていたり、望む生活ができるように努力しております。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ前は個別ではご家族様の協力を得たり、職員が買い物に出かけたり、団体で出かけたりという機会を作っておりました。現在はもっぱら散歩という形をとっております。	職員が「うちの自慢は外出です」と語るように、外出には積極的に取り組んでいます。緑豊かな自然あふれる遊歩道がすぐ近くにあり、利用者と職員は毎日散歩に出かけ、四季折々の風景を楽しんでいます。「散歩ノート」を作り記録もしています。コロナ感染予防対策で、散歩時はマスクを付け、戻ったら手洗い、うがいも実施しています。日々、室内でもパズルや風船バレー、体操、歌を唄う等コロナ禍で自粛生活中も、楽しい暮らしのために様々な工夫を凝らしています。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じて、そのように支援しております。		

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51				○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様に9時から17時の時間帯での電話、手紙に関しては良識の範囲で自由に行っていただいております。			
52	(19)			○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁紙などを季節感がでるものにしております。	台所は利用者が過ごすリビングと対面方式で、食事作りの音や匂いが感じられ生活感が漂っています。ベランダからは、PLの花火やゴルフ場を借景とした眺望を楽しむ事ができます。リビングの壁は、季節に合わせた紫陽花の折り紙などが飾られ、折々の季節感を醸し出しています。		
53				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の指定はございますが、自由に座っていただけるように椅子の移動などの支援をおこなっております。			
54	(20)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを数品ほど持ち込んでいただき、馴染んでいただけるように、ご本人様のご希望をかなえております。	利用者が昔馴染んだであろう畳と障子を活用して全居室が和室となっています。ホーム備え付けはエアコン、ベッド、テレビです。他に馴染みのタンスや置物、写真なども持ち込むことができます。仏壇を置いている利用者もいます。		
55				○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	望まれることがあれば吸い上げ、その実現が他利用者さまの生活の阻害要因となりえない場合には、積極的に採用させていただき、共同生活が確実に潤滑していくことができるように努めています。			